

平成24年11月13日

平成24年度人材委員会活動報告（中間報告）

1. 会議開催状況

(1) 人材委員会

(第1回)

日時：平成24年8月22日（水） 15:00～17:00

場所：東京大学附属図書館3階大会議室

議題：

- ・平成24年度人材委員会の体制について
- ・平成24年度の活動方針について
- ・海外派遣事業の諸課題について

(第2回)

日時：平成24年11月13日（火） 13:00～14:00

場所：九州大学附属図書館

議題：

- ・秋季理事会への活動経過報告案について
- ・平成25年度以降の海外派遣事業に係る関連規程の改正案について

(2) 人材育成小委員会

(第1回)

日時：平成24年8月22日（水） 13:00～15:00

場所：東京大学附属図書館2階第1小会議室

議題：

- ・平成24年度の活動について
- ・課題と担当について
- ・平成25年度以降の海外派遣事業の枠組みについて
- ・「海外派遣経験に関するアンケート」集計結果の報告と公開について
- ・海外派遣事業メーリングリストの作成運用について

2. 活動成果

(1) 第8回国立大学図書館協会マネジメント・セミナー

テーマ：「一歩先の大学図書館戦略を描く～知識イノベーションをめざして」

日時：平成24年6月22日（金） 9:00～12:00

場所：神戸大学出光佐三記念六甲台講堂

受講者数：201名（90機関）

(2) 平成24年度海外派遣事業の実施

海外派遣者の選考結果に基づき、短期：3件5名を派遣することとした。

（選考結果については、第59回総会にて報告済み）

(3) 「海外派遣経験に関するアンケート」集計結果（概要）の報告及び公開

(4) 海外派遣事業メーリングリストの開設及び運用開始

3. 今後の検討事項

(1) 第9回国立大学図書館協会マネジメント・セミナーについて

(2) 平成25年度以降の海外派遣事業について

(3) 人材育成に係る情報発信ウェブサイトについて

(4) 研修事業のあり方について

(5) 人事政策について

第8回国立大学図書館協会マネジメント・セミナー 開催報告書

平成 24 年 8 月 22 日
人 材 委 員 会

1. テーマ

「一歩先の大学図書館戦略を描く～知識イノベーションをめざして」

2. 日時

平成 24 年 6 月 22 日(金) 9:00～12:00

3. 場所

神戸大学出光佐三記念六甲台講堂(神戸市灘区六甲台町 2-1)

4. 受講者数

館長・副館長級	61機関	63名
部長級	37機関	37名
課長級	87機関	98名
その他	2機関	3名
合計	(重複を除く) 90機関	201名

※その他： 文部科学省、国立情報学研究所図書館・連携協力室

5. プログラム (別紙 1「講演及びオープン・ディスカッション概要」参照)

	司会： 井上 修 (人材委員会／東北大学附属図書館事務部長)
9:00～ 9:10	開会 挨拶： 東島 清 (人材委員会／大阪大学附属図書館長)
9:10～10:20	講演「科学技術とイノベーションの基盤としての国会図書館の役割」 大滝 則忠 (国立国会図書館長)
10:20～10:35	休憩
10:35～11:50	オープン・ディスカッション コーディネータ： 高橋 隆行 (人材委員会／福島大学附属図書館長) コメントータ： 大滝 則忠 (国立国会図書館長) 江夏 由樹 (一橋大学附属図書館長)
11:50～12:00	まとめ・閉会

6. 受講者アンケート結果（別紙 2「アンケート集計結果報告」参照）

回答者:92名(受講者201名中) 回答率:45.8%

7. 決算

予算		支出		予算との差異
協会費	250,000	マネセミ支出額	126,040	123,960

内訳及び前年(第7回)との比較

第7回支出		金額	第8回支出		金額
会場使用料(サ込)		165,000	会場使用料		58,800
控室使用料		0	控室使用料		0
附帯設備使用料(マイク、スクリーン等)		103,500	附帯設備使用料(マイク、スクリーン等)		0
吊り看板		36,000	立て看板		20,000
消費税		15,225	消費税		1,000
会場費計		319,725	会場費計		79,800
講師旅費		55,700	講師旅費		39,940
講師謝金		36,000	講師謝金		0
講師経費計		91,700	講師経費計		39,940
講師及び受講者用飲料(210本サ・税込)		43,659	講師及び受講者用飲料		0
配付資料印刷費		0	配付資料印刷費		0
講師事前打合せ関係 (5/13東京にて打合せ)		0	講師事前打合せ関係		0
			講師及び関係者会場送迎費		6,300
その他計		43,659	その他計		6,300
合計		455,084	合計		126,040

8. 運営スタッフ

人材委員会	北海道大学附属図書館 事務部長	片山 俊治
	東北大学附属図書館 事務部長	井上 修
	筑波大学附属図書館 情報サービス課長	細川 聖二
	千葉大学附属図書館 利用支援企画課長	島 文子
	東京大学工学系・情報理工学系等情報図書課係長	飯塚 亜子
	お茶の水女子大学附属図書館 図書・情報チームリーダー	江川 和子
	一橋大学学術・図書部 学術情報課長	小陳 左和子
	京都大学附属図書館 情報サービス課参考調査掛長	赤澤 久弥
	香川大学図書館 情報図書グループリーダー	北條 充敏
総会当番館 (協力)	神戸大学附属図書館 情報サービス課長補佐	土屋 祥子
	神戸大学附属図書館 情報管理課企画係長	山崎 真知子

以上

第 8 回国立大学図書館協会マネジメント・セミナー

講演及びオープン・ディスカッション概要

〔平成 24 年 6 月 22 日（金）9:00～12:00 於 神戸大学出光佐三記念六甲台〕

1. 講演「科学技術とイノベーションの基盤としての国立国会図書館の役割」

大滝 則忠(国立国会図書館長)

はじめに、国立国会図書館の基本機能やこれまでの歩みと現況、科学技術情報拠点としての役割や位置づけについて紹介があった。

続いて、所蔵資料のデジタル化とデジタル化のための環境整備、電子情報資源の収集と提供、管理・保存、利活用の促進、レファレンス関連情報の共有化等、国立国会図書館の取組みの現況と方向性について解説があった。現在、「東日本大震災アーカイブ」の構築に最も力を入れている一方で、第 4 期科学技術基本計画を受け、「知識インフラ」の構築に向けて中心的役割を担うことが求められており、これまでの事業の成果を活用すると共に関係機関との連携・協力を進めながら寄与していく方針との報告があった。

最後に、科学技術とイノベーションのための情報基盤として果たすべき国立国会図書館の役割は大きく、情報基盤整備においては大学・学術研究機関が有する情報と補完しあいながら、利用者の情報ニーズに応じていく連携関係が必要であるとの指摘がなされた。

2. オープン・ディスカッション

コーディネータ: 高橋 隆行(福島大学附属図書館長)

コメンテータ: 大滝 則忠(国立国会図書館長)

江夏 由樹(一橋大学附属図書館長)

最初は大滝館長の講演に対する質疑応答があり、資料デジタル化の進捗状況や共同分担化、災害への対応等について質問が寄せられた。

続いて、江夏館長、高橋館長からそれぞれ人文社会系、理系研究者の立場から、研究成果の電子化状況調査や大学図書館の利用形態、研究情報収集法等について報告が行われた。

その後、第 4 期科学技術基本計画に示された研究情報基盤整備の推進方策に基づき、コーディネータの進行のもと、参加者との質疑応答を通して次のような意見交換を行い、研究情報基盤強化の方向性について知見を広めることができた。

(意見の概要)

- 国立国会図書館は、納本制度による紙媒体の資料の収集に加えてインターネット資料の網羅的収集・提供を行うとともに、ポータルサイトを通じて大学が構築する機関リポジトリ等へのアクセス環境を整備することにより、大学等に所属しない利用者も含めた国民全体にそれらの情報を提供できるよう、大学や研究機関と連携しながら取り組んでいく方針である。
- 情報資源へのアクセスを提供するという機能において、多様な属性を持つ利用者のニーズを満たすためには、国立国会図書館と大学図書館がある程度役割分担をしながら連携協力体制を推進することが必要。その一方で大学図書館は、大学に所属する研究者以外の民間利用者が大学の知的集積にアクセスできる環境も整備していくべきではないか。

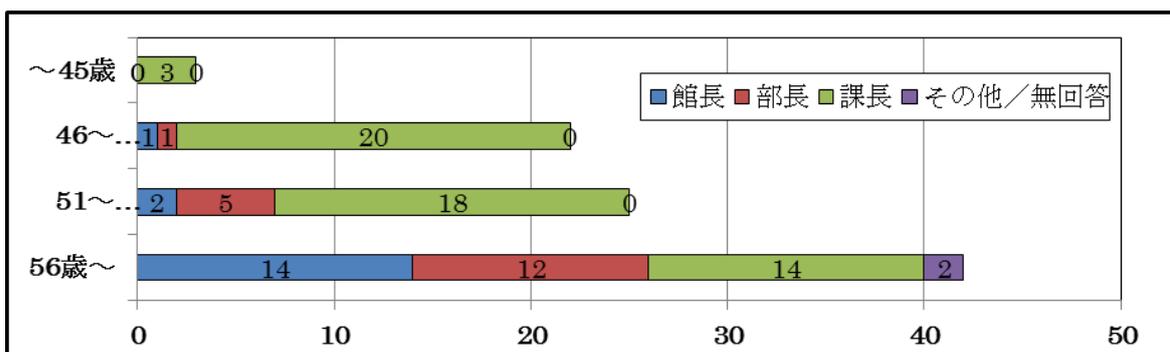
- 東北大学が進めている「みちのく震録伝」プロジェクトは、東日本大震災で得られたあらゆる記憶、記録、事例、知見を収集しアーカイブするという点で「知識インフラ」の構築という角度から見てもかなり先進的な取組である。国立国会図書館も「東日本大震災アーカイブ」の構築にあたり、先行事例として参考にしている。
- 「知識インフラ」は、文献情報だけでなく研究データやその他の情報も収録対象としているが、研究データ等の登録には権利関係等様々な問題を伴うことが予想されるので、収録対象の範囲については慎重に判断する必要がある。
- 人文社会系の研究には、世に知られていない資料の探究によって成果を出すという側面がある。横断的な統合検索により研究成果に誰でもアクセスできる環境の整備が求められている一方で、一次資料については、情報の標準化に適さない領域も残り続けるのではないか。
- 「知識インフラ」の構築には財政的基盤が不可欠。知識インフラは分散・分担型のシステムなので個々の機関の財政的裏付けが必要であると同時に、関係機関の間で共有の認識を持ち、国の財政的措置を共同して要求していくことも必要。
- 「知識インフラ」構築にあたっては、行政面では文部科学省が科学技術振興、図書館振興の一環として政策、予算を担う一方、立法府に属する国立国会図書館は、館種を超えた連携の中で、国全体及びグローバルな情報要求に応え情報と利用者をつなぐのが役割。役割分担を認識しつつ、国立国会図書館は立法と行政の垣根を超えて活動していきたい。
- 研究情報が「知識インフラ」に収録され誰もが領域横断的に統合検索可能な状態になることによって、情報の読まれ方、使われ方が変化していき、想定外の影響を及ぼす可能性があることを認識すべき。
- 機関リポジトリの推進にあたっては、収録文献数の増加という量的な成果を求める傾向があるが、リポジトリ収録により情報の利用者層が大きく広がるからこそ、大学は収録情報のクオリティをより重視し、責任を持つべきである。収録対象についても一度見直すべき時期を迎えているのではないか。

第8回国立大学図書館協会マネジメント・セミナー アンケート集計結果

[平成 24 年 6 月 22 日(金)9:00～12:00 於神戸大学出光佐三記念六甲台講堂]

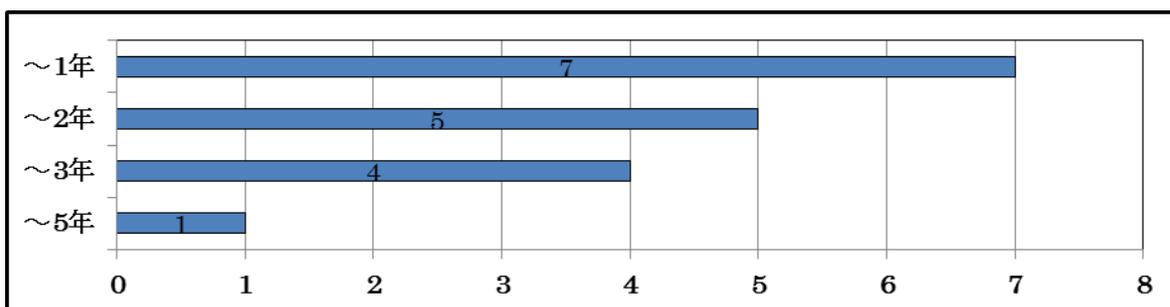
1. 回答数 92名(受講者201名中), 回答率: 45.8 %

2. 年齢



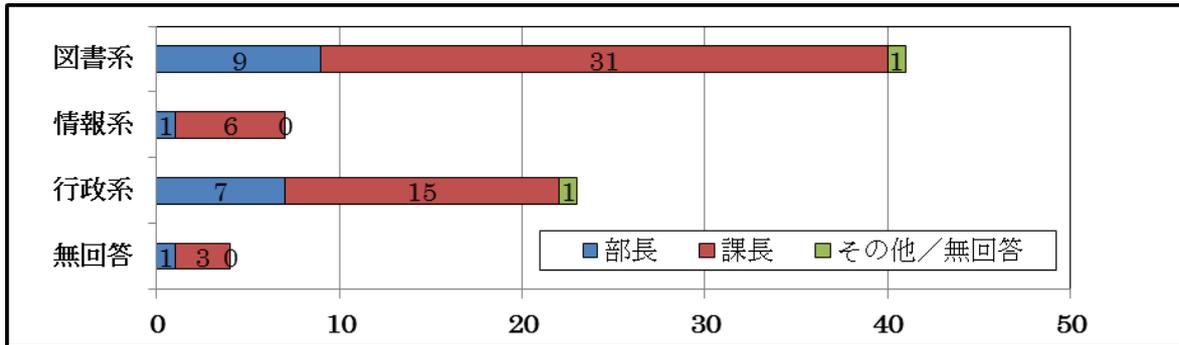
	～45歳	46～50歳	51～55歳	56歳～	合計
館長・副館長級相当職	0	1	2	14	17
部長級相当職	0	1	5	12	18
課長級相当職	3	20	18	14	55
その他/無回答	0	0	0	2	2
合計	3	22	25	42	92

3. 館長・副館長級相当職の経験年数



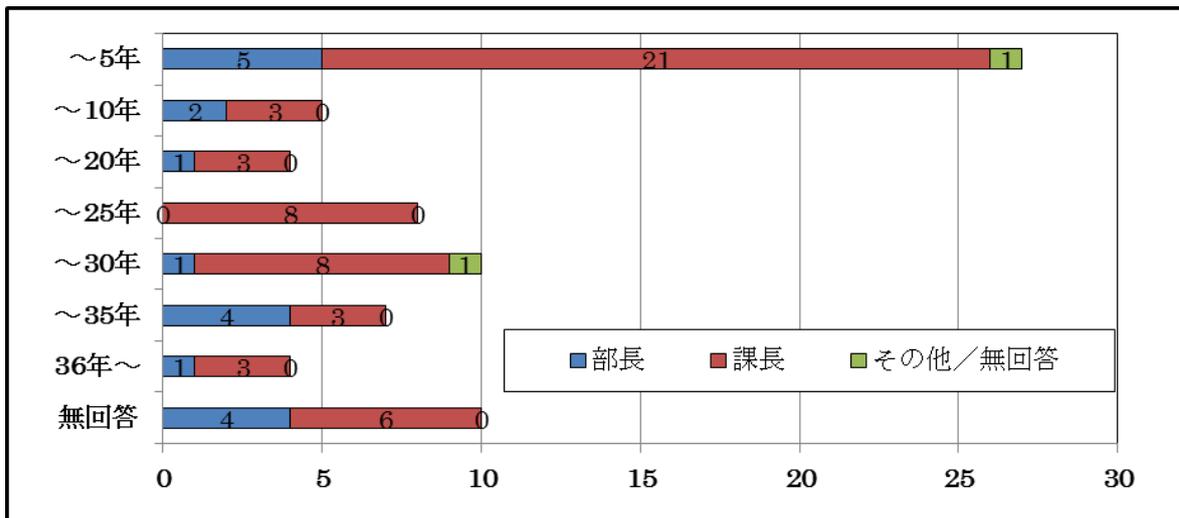
	～1年	～2年	～3年	～5年	合計
館長・副館長級相当職	7	5	4	1	17

4. 事務職の職系



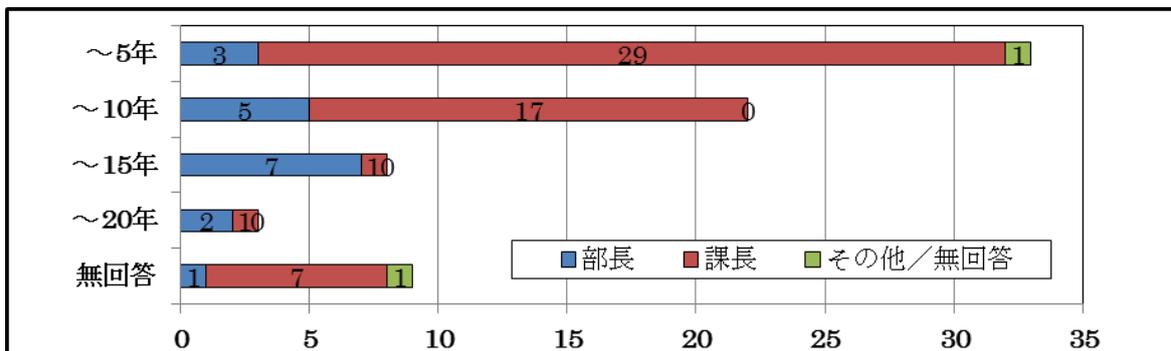
	図書系	情報系	行政系	無回答	合計
部長級相当職	9	1	7	1	18
課長級相当職	31	6	15	3	55
その他/無回答	1	0	1	0	2
合計	41	7	23	4	75

5. 事務職の図書館勤務年数



	～5年	～10年	～20年	～25年	～30年	～35年	36年～	無回答	合計
部長級相当職	5	2	1	0	1	4	1	4	18
課長級相当職	21	3	3	8	8	3	3	6	55
その他/無回答	1	0	0	0	1	0	0	0	2
合計	27	5	4	8	10	7	4	10	75

6. 事務職の管理職経験年数

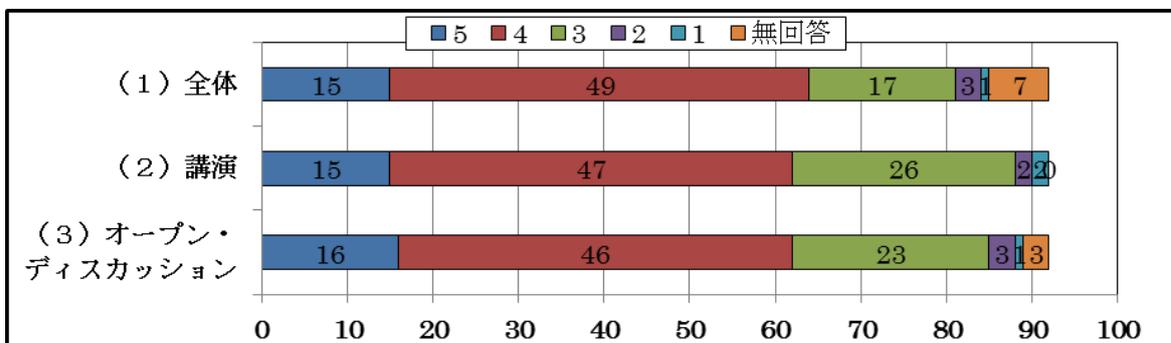


	～5年	～10年	～15年	～20年	無回答	合計
部長級相当職	3	5	7	2	1	18
課長級相当職	29	17	1	1	7	55
その他/無回答	1	0	0	0	1	2
合計	33	22	8	3	9	75

※【参考】

記者数 全 33 名 (館長級:12/63, 部長級:3/37, 課長級:17/98, その他:1/3)

I セミナー全体および各題目が参考になったかどうか



	5:たいへん参考になった	4:参考になった	3:ふつう	2:参考にならなかった	1:全く参考にならなかった	無回答
(1) 全体	15	49	17	3	1	7
(2) 講演	15	47	26	2	2	0
(3) オープン・ディスカッション	16	46	23	3	1	3

【理由】

※[館]館長・副館長級相当職, [部]:部長級相当職, [課]:課長級相当職, [無]:役職無回答

(1) セミナー全体

《5:たいへん参考になった》

- ・ 大変勉強になりました。有難うございました。[館]
- ・ 新任事務長であるので、すべての説明等が参考になりました。[課]
- ・ 業務上、悩んでいたテーマであったため。[課]

《4:参考になった》

- ・ 「知識インフラ」の整備の方向性が整理されたこと。[部]
- ・ 最終的にユーザーの立場での議論に近づいたことはよかった。[部]

《3:ふつう》

- ・ Archivist を育成しないで、Librarian にアーカイブズの仕事させるのは間違いだと思います。[課]
- ・ 「一歩先の」というより、おさらい的なお話だったため。“医系”もあると(診療個人情報の問題や古い情報は害となる問題があり、また違うので)嬉しかったです。[課]

《2:参考にならなかった》

- ・ “一歩先”とは何だったのか？電子化のことなら、そう表現すべきでは？タイトルと内容に不和合を感じた。図書館オタクの視点ではなく、「学生」の視点をもっと入れるべきだ。[館]
- ・ 連携の状況が参考になったが、大学図書館が直面してる課題の解決に参考になるものは少なかった。[課]

《無回答》

- ・ 知識インフラの整備について考えるよい機会となったので。[館]
- ・ むずかしかった。理解できなかった。[課]

(2) 講演

《5:たいへん参考になった》

- ・ 国会図書館の役割と現状がよくわかったので。[館]
- ・ 国立国会図書館のことが、概論としてよく分かりましたし、戻ってから、ネットでのアクセスを試みたい。自分の研究にも活用したいと考えています。[館]

《4:参考になった》

- 国会図書館の講演は、個人的には国会図書館にお世話になってきたので興味深かったのですが、本館のような小規模な図書館の現状との関連という意味では、どうもピンと来なかったのが本音です。[館]
- 国会図書館の今後の動向がよく判り、大学図書館の進むべき姿を考える参考となった。[館]
- 国立国会図書館の現状がよくわかったこと。[部]
- 国立国会図書館の取り組みを把握できた。[課]
- 改めて現在の NDL の取組状況がわかって良かった。[課]

《3:ふつう》

- 「知識インフラ」の整備を国家的に進めていこうとしている状況が少しわかりました。[館]
- 大滝館長の話は幅広ではあったが、話が長かった。[部]
- 基調講演の内容は、必ずしも国会図書館長が報告しなくてもよいレベルのものと思った。[部]
- 想定できた内容であったが、整理ができた。[課]
- 国会図書館の先進的取り組み、あるいは、国公立図書館の中心とし、その役割を果たそうとする姿は十分に感じられました。[課]
- 国立国会図書館の役割について参考になりました。[無]

《2:参考にならなかった》

- 国会図書館と大学図書館のかかわりが不明であり、大学図書館としてどのように活動すべきか判断できる内容ではなかった。[課]

《1:全く参考にならなかった》

- 基調講演は、長いだけで焦点が絞れていない。国立大に連携してほしい点だけに絞るべき。とくに旧帝大系以外の小規模大学図書館にとってはほとんど参考にならない。国会図書館の資料が見たければ個人の資格でアクセスできるのだから、国立大学図書館関係者に細かく知らせてもあまり意味はない。マネジメントになっていない。[館]

(3) オープン・ディスカッション

《5:たいへん参考になった》

- 特にオープンディスカッションは、重いテーマの中で、より現場に近い問題点や課題をお話いただき、大変参考になった。[課]
- オープンディスカッションは今後の運営を考える上において大いに参考になった。[課]

《4:参考になった》

- 昨日の WS もそうだったように思うが、コーディネータのコーディネーションがいま一つだった

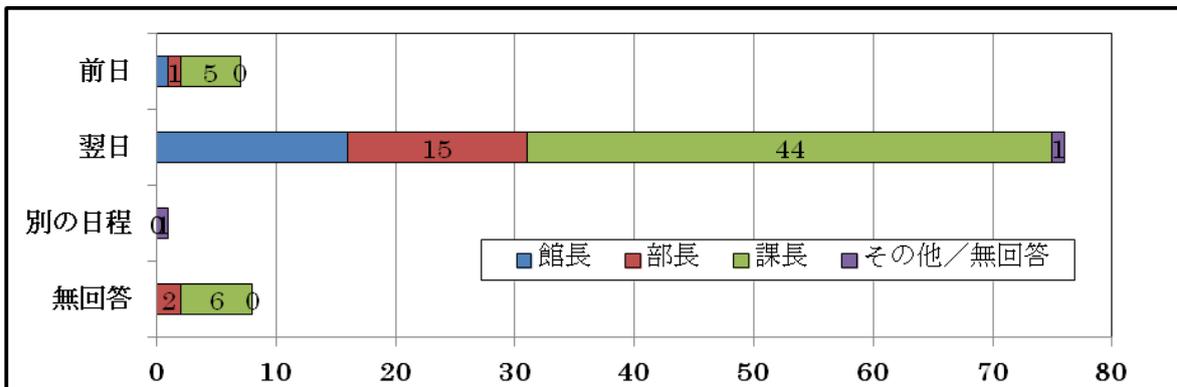
と思う。もう少し準備をして取り組んでいただきたかった。[館]

《3:ふつう》

- ・江夏館長の提示したデータ分析は興味深く聞いた。[部]
- ・「機関リポジトリ」の掲載情報への責任など、参考になりました。[無]

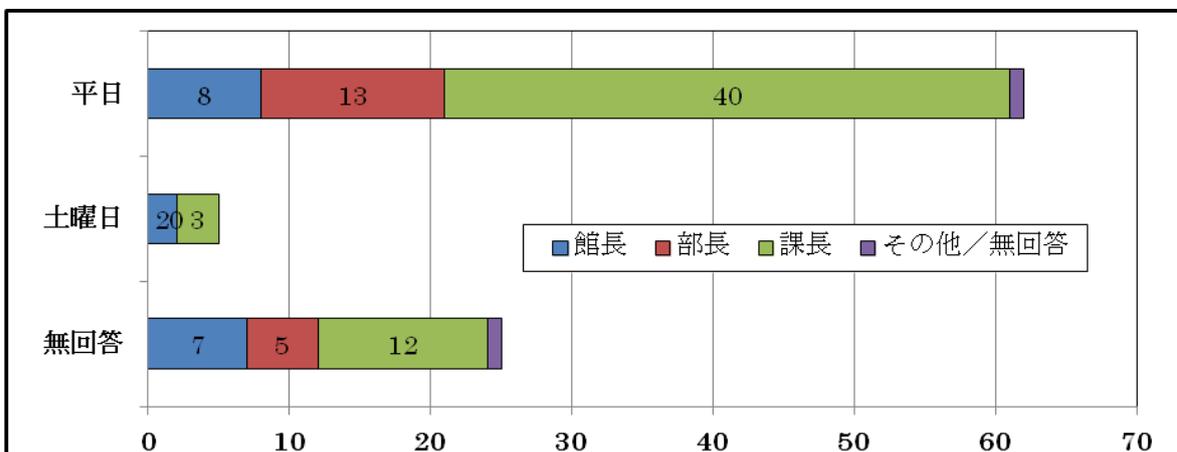
Ⅱ セミナーの開催時期について(国立大学図書館協会総会との関連)

(1)開催時期



	前日	翌日	別の日程	無回答	合計
館長・副館長級相当職	1	16	0	0	17
部長級相当職	1	15	0	2	18
課長級相当職	5	44	0	6	55
その他/無回答	0	1	1	0	2
合計	7	76	1	8	92

(2)開催する曜日



	平日	土曜日	無回答	合計
館長・副館長級相当職	8	2	7	17
部長級相当職	13	0	5	18
課長級相当職	40	3	12	55
その他／無回答	1	0	1	2
合計	62	5	25	92

【理由】

※[館]館長・副館長級相当職, [部]:部長級相当職, [課]:課長級相当職, [無]:役職無回答
 《開催時期:総会の前日がよい》

- ・前日でも翌日でも隣接していればよい。[課]

《開催時期:総会の翌日がよい》

- ・授業期間を避けていただくと助かります。[館]
- ・気楽に参加可能。[館]
- ・総会の前後で都合が付き易い。[部]
- ・初めて参加するが、現状で不都合はなかったため。[課]
- ・できるだけ出張日程、回数が少ないほうが良いので。[課]
- ・北海道からだと前日入りしなければいけないため、特に副学長でもある館長が3日間都合をつけるのが大変なので、できれば。[課]
- ・出張が1回ですむ。[課]

《開催時期:総会とは別の日程がよい》

- ・総会が1日で長時間であるので、別の日程が良いように思う。[無]

《開催時期:無回答》

- ・総会(ワークショップ)とマネジメントセミナーは一つのものとして扱うべきだと思う。[部]
- ・いつでもよい。[課]

《開催曜日:平日》

- ・専門の関係で土日は実習、イベント、研究会等が多く、出席がむずかしい。[館]
- ・金曜日。[課]

《開催曜日:土曜日》

- ・平日は大学内の雑務におわれているので、参加するにはかなり無理をしなければならない。[館]
- ・若手の出演があるテーマを取り上げていただければ、平日がいいです。[課]

Ⅲ 今後のセミナーで希望するテーマ

※[館]館長・副館長級相当職[部]:部長級相当職,[課]:課長級相当職,[無]:役職無回答

- ・ NII の取り組み。[館]
- ・ 海外の大学図書館の利用状況などから、学ぶべきことはないだろうか？[館]
- ・ 学生の利用に関すること、とくに建物内で生じる問題について。[館]
- ・ 昨日のワークショップ A のテーマ。つまり学生の学修の場としての機能の強化について、具体的な事例をもとに議論したい。[館]
- ・ 私立大学図書館による斬新な取り組みで、国立大学図書館でも見習うべきもの。国立大学は法人化されたのだから、権威に安住せず私大や民間企業から多くを学ぶべき。[館]
- ・ 電子ジャーナルの流通制度改革、価格適正化のための法改正、条約制定(改正)に向けた取組の可能性について。[館]
- ・ 図書・論文にとどまらないさまざまな資料・情報につき、図書館としてどう取り組むか。アーカイブ学との連携の可能性 etc。[館]
- ・ ニーズの多様化と図書館サービス[館]
- ・ 「ラーニング・コモンズ」の成功例等についての報告を行っていただけたらと思います。[部]
- ・ オープン・アクセス(館長の認識を高めるため)。[部]
- ・ グローバル・インフラ:海外を含めた国際的な情報流通に関するオープン化の現状と今後の我が国の取り組むべき課題について。[部]
- ・ 大学図書館の価値。[部]
- ・ 日本における国立大学の在り方、海外大学や公私立大学図書館の状況との比較検討も含めて、大学改革を求められている今改めて考えてはどうか。[部]
- ・ オープンアクセス。[課]
- ・ 学生の教育学習支援組織としての図書館の役割、今後の展望。[課]
- ・ 具体的なテーマを希望します。[課]
- ・ 実務の課題を取り上げ、教員・研究者でもある館長と今後の取り組みをディスカッションするようなもの。[課]
- ・ 組織経営、人材育成。[課]
- ・ 大学図書館の蔵書構築。[課]
- ・ 大学を経営する立場の方から学術基盤強化に期待する内容をテーマ。大規模、中規模校を代表した方。[課]
- ・ デジタルアーカイブ。[課]
- ・ 電子書籍への取り組み。[課]
- ・ 特にありません。[課]
- ・ 図書館員のスキルの多様化。[課]
- ・ 図書館業務に携わる職員の人材育成について。[課]
- ・ 一歩先の海外事例を海外派遣・ICOLC 派遣した若手に発表してもらい、日本でどう取り入れられ

るかディスカッションするようなもの。[課]

- ・ 広報戦略。[課]
- ・ マイグレーション。[課]

IV セミナーの感想、希望、意見等

※[館]館長・副館長級相当職[部]:部長級相当職, [課]:課長級相当職, [無]:役職無回答

- ・ 2 年内で消える知識を図書館で電子化して保存する意味はあるのだろうか？ 関係者の意識自体が電子化しているにすぎないのでは？[館]
- ・ 貴重なお話をありがとうございました。[館]
- ・ とても役に立ちました。戻ってから、大学附属図書館運営に活用させていただきます。[館]
- ・ 毎年、講演者が真面目すぎて、冗談ひとつ言わない。つまらない。[館]
- ・ 9時からではなく9時30分または10時からの開始が移動の点で望ましいと思う。[部]
- ・ 神戸大学をはじめ関係者の皆様大変お世話になりました。[部]
- ・ これからはオープンアクセスの方向にあることを共通理解したい。[部]
- ・ マネジメント・セミナーを総会日程の中に組み込んで計画したほうがよい。[部]
- ・ テーマとセミナーの実際の内容があまりマッチングしていないように感じた。一步先の大学図書館戦略の議論ではなかったのでは。第4期の先を見た議論をすべきであったと思う。セミナーの設定・運営等ありがとうございました。[部]
- ・ 3年前までの事務系と館長等を別にし、より実務に近いセミナーをのぞむ。[課]
- ・ 大滝館長の資料の公開をしてほしいです。[課]
- ・ お世話になりました。[課]
- ・ 小規模大学にももう少し即物的に役立つ、元気ややる気が出るセミナーを希望します。[課]
- ・ 大変参考になりました。[課]
- ・ お世話になりありがとうございました。[課]
- ・ 神戸大学図書館職員の皆様、お手伝い、お疲れさまでした。[無]

以上